

2023年度（令和5年度）事業報告

デイサービスセンター長宝

1 施設を取り巻く現状と課題

(1) 事業の種類及び利用定員

事業種：通所介護及び地域支援事業

利用定員：31名

契約者数：34名

(2) 県市町村等からの受託、補助事業等

・C型事業（由布市元気アップ教室）

・出張デイサービス（小野屋地区と長宝団地）コロナ感染により停止中。

(3) 地域における公益的な取組

・地域の清掃活動として「クリーングリーン作戦」月1回実施

(4) 運営方針

法人理念である「共歩・共笑・共育」のもと、利用者の皆様が、何歳になっても生き活きと元気に過ごすことができるよう、心身機能・認知機能の維持・向上に努めました。また、本人とご家族がどのように過ごしていきたいか、想いに寄り添えるよう、担当者会議を通じて相談をし、実施していきました。職員は明るい挨拶と楽しい雰囲気作りに努めました。

利用者様には、高齢になっても自分の役割を認識していただくため、生きがいワークを通し、デイサービスの中でできる役割を見つけ活動していただきました。活動を行い、自分で稼いだデイコインで日用品など、好きなものを購入できるようにし、活動意欲につながる支援を行いました。

施設の実施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	SNS を使って働く職員や事業所の様子を発信する（達成度 60%）
現状と課題	編集や投稿の技術不足と撮影時間の確保が難しい。発信内容の偏りがある。
取組状況	法人のインスタ等に載せるため、行事の度に経営企画室の協力のもと撮影をしてもらいました。今年度は投稿に関する技術を勉強することができなかつたため、来年度は自施設で行事だけではなく日常の様子なども投稿していけるよう、SNS の技術について学び、実践していきます。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	新人・中途採用者に対し、統一した指導ができる体制づくり（達成度 45%）
現状と課題	配置的に固定した担当が付き、指導をすることが難しい。
取組状況	今年度より、職員をチーム分けし、リーダーを中心に支援について検討等を行うよう取り組み始めましたが、うまくチームごとで動くことができず、結果、主任や副主任頼りになり、居ない日は検討事項も解決へと進まないという状況がありました。来年度はチーム分けに対する意識を持ち、リーダーを中心に支援についての検討や家族の連絡等ができるようにしていきます。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	お互いを尊重し、チームで協力し合うことで働きやすい職場環境を作る。（達成度 70%）
現状と課題	業務に追われ、心の余裕やコミュニケーションを図る時間がないため連携が取れていない。
取組状況	今年度から職員の懇親会を実施し、三か月に一回ほどのペースで行いました。参加できる職員が集まり、仕事以外の話をざっくばらんにすることでコミュニケーションが図れる時間をつくりしました。しかし、職員会議でパート職員がなかなか参加することが来ていないため、コミュニケーションも必要だが、業務の支援についての話し合いや、勉強会などを行っていきたい。という意見が出てきました。来年度は、職員会議の時間帯を見直すことと、懇親会を意見交

	換会に変更し、支援についての話や、施設内研修などを行っていき たいと思います。
--	--

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	年休取得率向上を目指す（達成度 65%）
現状と課題	人材不足で業務量が多いこと、属人化により取りたいタイミングで 年休が取れない
取組状況	正規職員は4名であり、パート職員ができない業務を正規・臨時職 員で対応するようになるため、正規職員の業務量は変わらず多い状 況でした。最終的に年休は平均10日以上取得できましたが、取り たいタイミングではなかなか取れず、連休取得はかなり難しい状況 でした。来年度は人員不足を解消し、属人化とならないよう、業務 の引継ぎを行い、それぞれが取りたい時期に年休取得ができる環境 にしていけるよう目指します。

実施施策	業務内容の見直し（達成度 70%）
現状と課題	利用時間の間ほぼすべての職員が利用者支援に入らなければなら ない支援内容となっている。
取組状況	午前と午後の利用者の活動内容を見直し、少人数で対応できるよ うな内容へ変更していきました。午前中は入浴支援もあり難しいの ですが、午後は支援方法や、レクリエーション時の体系を一部変更し、 少ない職員でも対応できるようにすることで、時間の捻出ができて います。しかし、全体的にご利用者の介護度が上がり、歩行の見守 りや車いす対応の方も増えてきているため、職員数が必要になる部 分も多くなってきている現状にあります。そのため、場面・場面に 合わせ効率よくサービスの提供ができるよう、今後も思案してい きます。

(2) 利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	介護技術の向上（達成度 40%）
現状と課題	介護福祉士の資格や実務者研修を受けている職員が少ない。また、 介護予防に対する知識が乏しい職員が多い。
取組状況	令和5年度は、一日の職員数に余裕がない状況だったため、研修へ の参加があまりできず、また資格取得は希望者がいませんでした。 ズームでの参加も数回行いましたが、途中で利用者の体調の変化や

	<p>急な病院受診等が入り、途中で退出しなければならない状況になることもありました。来年度は職員数の確保を行い、職員がレベルアップできるよう、研修受講を増やすと共に、正規・臨時・パートに関わらず、資格取得に向けてのバックアップを行っていきたいと思います。</p>
--	---

実施施策	統一された支援と情報共有。(達成度 55%)
現状と課題	勤務形態が多様で連絡事項や支援方法の統一が不十分であること、また、職員それぞれが情報収集に対し、意識が薄い。
取組状況	連絡ノートやホワイトボードを使用しての情報共有などを試しましたが、全職員への共有ができませんでした。令和6年1月よりグループラインでの情報共有を行うよう開始し、以前よりかなり共有ができています。文章入力の手間がかかる部分もありますが、共有に関しては、全職員が目を通すことができ、支援の統一にも繋がっています。今後は生産性向上に向け、さらなる効率の良い情報共有手段のツールを考え、実施していきたいと思います。

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	環境整備を行い、リスク管理の強化を行う(達成度 70%)
現状と課題	心身機能の低下により、転倒・誤嚥等の危険性が高くなっている。
取組の方向性	健康観察については、体調の変化などに対し早急に病院を受診しました。加齢によるADLの低下に対しては担当者会議等でご家族や担当ケアマネと話し合い、予防に向けての取り組み等を行っています。リスク因子に関しては専門職への相談や、退院時の情報収集を通して必要な福祉用具の導入を検討し、リスクを回避できる環境整備を行いました。引き続き、環境整備、リスク管理強化を行っていきます。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	由布市高齢者通いの場に出向く(達成度 20%)
現状と課題	コロナ禍となり、地域との繋がりが少ない。C型利用者の安定確保ができていない。
取組の方向性	人数の関係や施設内でのコロナクラスター発生があり、令和5年度は由布市高齢者通いの場に出向くことはできませんでした。C型事業に関しては、月平均3.5名の利用があり、令和4年度よりも実績は上がっています。安定的な人数確保を行うために、由布市との協

	力で C 型事業のチラシを作成しました。今後、病院や公民館等に貼付し、参加者を募ることで利用者数の安定的な確保を目指していく予定です。
--	---

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	利用者の安定確保（達成度 70%）
現状と課題	周辺に他施設が多く、利用者が分散しやすい。また、利用依頼の大半がケアマネジャーからの依頼であり、個人からの依頼が多い。
取組状況	居宅介護支援事業所ゆふネットが閉所したこともあり、他事業所のケアマネジャーとは、受け入れ可能人数などの連絡をよく取り合っています。事業所を訪問し、チラシを配布することで新規利用者や既存の利用者が曜日を増やすなど、利用者増に繋がっています。また、以前、C 型事業に参加したことのあるご利用者の状況が変わり、介護認定を受けデイサービスの利用に繋がったケースもあります。

実施施策	経費の抑制（達成度 45%）
現状と課題	職員が経費に対する関心や意識が低いため、抑制へと繋がっていない。
取組状況	抑制可能な経費に対して月ごとに何がどれだけの費用がかかっているのか一覧にしたものを会議等で確認し、職員が経費削減に対し意識できるようにしましたが、毎月の確認はできなかったため、時間が経つと節約の意識が薄れてしまっていました。今後は 2～3 か月毎に経費の開示を行い、意識だけではなくどのように削減していくのか具体策を検討します。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	多様な利用者へ対応可能な職員の育成（達成度 40%）
現状と課題	利用者の高齢化が進むことで、重度介護者の受け入れ需要が高まってくるのが予測されるが、職員の知識・技術不足している。
取組状況	人数に余裕がなく、介護技術に対する研修には参加出来ませんでした。職員の中に介護福祉士実習指導者の免許を持っている職員もいるため、来年度は研修に参加することだけでなく、介護技術を他の職員へ指導していくことも行っていき、職員全体が介護技術の向上をしていくよう努めます。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	施設内での連携強化を行う（達成度 40%）
現状と課題	兼務していない職員や、有料老人ホームに入ることが少ない職員は有料老人ホームでの情報が把握できていないことが多い。
取組状況	デイサービスのみの職員はゆふでの夜間や朝の利用者の様子を把握しにくい状況にありました。口頭での申し送りやノートを使用し伝えていきましたが、全員への周知ができず、別のツールでの情報共有を検討中です。今後インカム等を導入し、朝礼時に夜間の様子、日常では入浴時の状況、体調の変化や観察事項などをリアルタイムで共有できるツールへと変更していきたいと考えています。

通所利用率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
通所介護	27.3名	27.4名	28.5名	27.5名	27.5名	28.7名
C型事業	4名	4名	5名	6名	5名	4名

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
通所介護	29.4名	28.3名	30.4名	29.4名	27.2名	26.7名	28.1名
C型事業	2名	3名	2名	3名	2名	3名	3.5名

固定資産物品購入計画

（単位：千円）

名 称	購入業者	執行額	購入日
AED	メディカルアーネスト	330	R5.6.26
ルンバ	未実施	0	
公用車	長宝自動車ボデー	481	R6.3.30

修繕計画(大規模修繕を除く)

（単位：千円）

名 称	請負業者	執行額	完了日
エアコン修理	エアテック九州	27	R5.9.25
ウォシュレット	未実施	0	
壁水漏れの修繕	未実施	0	
浄化槽水中ポンプ交換	庄内衛生社	66	R5.5.15
浄化槽破損修理	庄内衛生社	112	R5.9.20

大規模修繕計画

(単位：千円)

名 称	請負業者	執行額	完了日
なし			